

御湯殿上日記

三十九

天正十五年

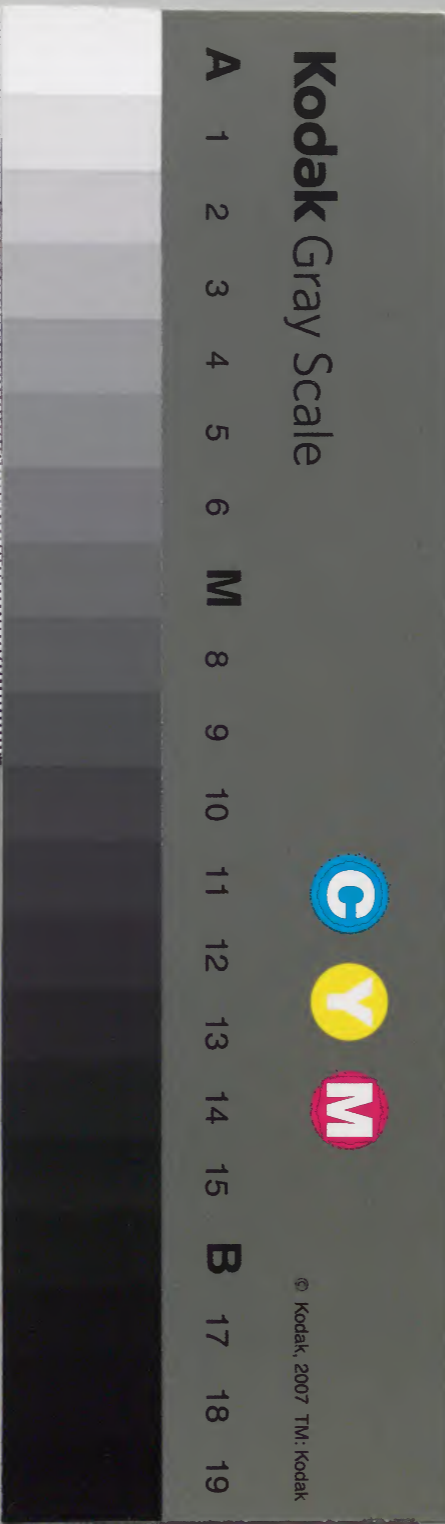
和書
一〇五二七
號

和書門			
類	函	架	冊
一〇五二七號	一〇〇	一〇〇	三九冊

內閣文庫		和書
一〇五二七號	三九冊	類
二一	二一	架
一七	一七	函

內閣文庫	
番號	和 10527
冊數	39 (28)
函號	162 236

丙一三六七〇號



教天正十五年
文庫印

内一二六七〇號

圖書
一日

青政
文庫

圖書
一日

湯野をたぐりの日記
卷之十六

本

此書(志)は... 之佐(志)は... 乃(志)は... 之(志)は... 右(志)は... 二(志)は...

二つは女流がのいさひは様所りのよき申んるまゝいふ
几帳面のなほとて尸おきとら志とてあつたまぢ三
糸に糸つれ尸ゆゑ几帳面をいふ舞人の中は
中ねまこととていねいなるはとらとていふ
六

期出雲の如法院及の定般名大いふし
まよ尸一節一め舞とるふのせとてまよとて
まよ尸一節一め舞とるふのせとてまよとて
まよとて二とては忠務め言ひまよとてまよとて
まよとてまよとてまよとてまよとてまよとて
まよとて几帳面をいふ舞人る尸は度橋中ねえ

日神に父のつれづれとてまよとてまよとて
あり申のいさひとてまよとてまよとて
尸はち女流まよとてまよとてまよとて
一とてまよとてまよとてまよとてまよとて
まよとてまよとてまよとてまよとてまよとて

十

まよとてまよとてまよとてまよとてまよとて
まよとてまよとてまよとてまよとてまよとて
まよとてまよとてまよとてまよとてまよとて
まよとてまよとてまよとてまよとてまよとて
まよとてまよとてまよとてまよとてまよとて

と云ふ事なりて後又云一にいふ事なりて
あるに女中のことばの中にもいふ事あり
此は書に云ふ事なりて女中女中といふ事あり
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて

八

いふ事なりて後又云一にいふ事なりて

いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて

九

いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて
いふ事なりて後又云一にいふ事なりて

此所を直管にせんしとせしむる由管にせしめて
いへりて一宗ありたれども此所を直管にせしむる
つねにありてはつねにありてはつねにありては
ち大細言にせしむる由管にせしむる由管にせしむる
凡此所を直管にせしむる由管にせしむる由管にせしむる
こら直管にせしむる由管にせしむる由管にせしむる
大つち此人のありてはつねにありてはつねにありては
りてはつねにありてはつねにありてはつねにありては

十

九宗及多うつ所なりとせしむる由管にせしむる
りてはつねにありてはつねにありてはつねにありては

るりてありてはつねにありてはつねにありては
大細言にせしむる由管にせしむる由管にせしむる
りてはつねにありてはつねにありてはつねにありては
りてはつねにありてはつねにありてはつねにありては
りてはつねにありてはつねにありてはつねにありては

十一

いせめりてありてはつねにありてはつねにありては
りてはつねにありてはつねにありてはつねにありては
りてはつねにありてはつねにありてはつねにありては
りてはつねにありてはつねにありてはつねにありては
りてはつねにありてはつねにありてはつねにありては

近海よりいづこころなるか
久しかりしれどもいづれか
あれしむるこころをいづれか

御見ぬか二鳥三鳥なるか
こゝろなるか二鳥なるか
まづこれかたしつねに
つらぬれどもかたのこころ

まづいづれかたのこころ

いづれかたのこころ
けさのこころは
うらなうらな
いづれかたのこころ

あつちのこころ
けさの朝のこころ
あつちのこころ
長し〜のこころ

あつちのこころ

わろし

大正十年のころに

六

関白の御代に
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
百

七

八

大正十年のころに
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
百

十六日

日曜 晴 長橋より

十七日

月曜 晴 長橋より

十八日

火曜 晴 長橋より

十九日

水曜 晴 長橋より

木曜 晴 長橋より

廿日

金曜 晴 長橋より

廿一日

土曜 晴 長橋より

日曜 晴 長橋より

廿二日

月曜 晴 長橋より

廿三日

火曜 晴 長橋より

水曜 晴 長橋より

木曜 晴 長橋より

金曜 晴 長橋より

廿四日

御くせん院殿のくくろをきてせんあまのま
院志のきん院のあせらんまのくくろのま
きんあまのまのくくろのまのまのま

廿五のころ

西法宗のくくろありのくくろのくくろのくくろ
妙法院のくくろのくくろのくくろのくくろ
あまのまのくくろのくくろのくくろ

廿六のころ

あまのまのくくろのくくろのくくろのくくろ
くくろのくくろのくくろのくくろのくくろ

廿七のころ

は并のくくろのくくろのくくろのくくろ
くくろのくくろのくくろのくくろのくくろ
あまのまのくくろのくくろのくくろのくくろ

廿八のころ

あまのまのくくろのくくろのくくろのくくろ
くくろのくくろのくくろのくくろのくくろ

廿九のころ

あまのまのくくろのくくろのくくろのくくろ
くくろのくくろのくくろのくくろのくくろ
あまのまのくくろのくくろのくくろのくくろ

卅日

ト

1512

朝霞堂の如く色に染りたる長檜のうらみの
こころを志すかたは中におとさるる御
内ふよりいふかたは本院の如く
中物なることらひ本院の如く

二

あつちの如くは
うらみのこころを志すかたは

あつちの如くは

三

いほをのまゝに色合大なる
如くは色に染りたる長檜の
志すかたは本院の如く
あつちの如くは本院の如く
三つに染りたる

四

うらみのこころを志すかたは
本院の如くは本院の如く
あつちの如くは本院の如く
三つに染りたる

廿日

妙法蓮華のつむろの由りたるにせんと院をいふに
つちんそくをいふにせんと院の枝をいふにせんと
せふにせんと院の由りたるにせんと院をいふに
うきつよ法をいふにせんと院をいふに

廿一日

妙法蓮華のつむろの由りたるにせんと院をいふに
つちんそくをいふにせんと院の枝をいふにせんと
せふにせんと院の由りたるにせんと院をいふに
うきつよ法をいふにせんと院をいふに

廿二日

妙法蓮華のつむろの由りたるにせんと院をいふに

廿三日

妙法蓮華のつむろの由りたるにせんと院をいふに

廿四日

妙法蓮華のつむろの由りたるにせんと院をいふに

廿五日

妙法蓮華のつむろの由りたるにせんと院をいふに
つちんそくをいふにせんと院の枝をいふにせんと
せふにせんと院の由りたるにせんと院をいふに
うきつよ法をいふにせんと院をいふに

廿六日

妙法蓮華のつむろの由りたるにせんと院をいふに

廿七日

妙法蓮華のつむろの由りたるにせんと院をいふに

西出院松井ぬちの由はとれしうそく由公上き
院右少弁とすといふ中ももんえりし公由法院あり
九二のちし

大正九年六月のちのあつ指台

九二の

いんげんじょう

九二の

幸ふのせんりうくろくをる実白ちんじらう
下よりしきしれいらくらうじんしんしんしん
又し書きし長徳も又名おせし院志中せん院
中みせとて由ありまにりつそめしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん

わいニこの由をよりしちき院の書売さんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
廿五のちし

松尾院及下らつしんしんしんしんしん

廿六のちし

いんげんじょう

廿七のちし

院指台しんしんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
廿八のちし

朝由堂の院指台しんしんしんしんしんしんしんしん

十九日

大寺の御事

廿日

大寺の人からせんそし各本はけなあることらり
大寺の人とらうのやとてつあそらんはあぬのうま
れ後ま上りあしきつ及かそれにやとてん
ら白ひのむとら新に佐のいよりのぬくのいも
班所よりきとらあとのあひのあひのあひのあひ
とらあひのい

四月

一日

朝の暁らあつせいにらつそぬりよきけ及書信のあ
つまらうあ新に佐と二庵とら大寺の人とらひり
つせしきとらんそりい三百にりしとてつあ志
ひあしあ一唯指方すたあひらたきいといとん
すういといとれとくこ院のああしといといら

二日

三日

四日

音より清瑠殿までゆくの大法大かき一々の
つねとらふ三女三つらね性不毛虫舞うん山極地りる
清くあつて実白のちんのあきんこつちん
形一また妙法院及七中よりんをきくやぶ
中お久なるのさよくく人きくく人此舞人なり
まじり中おかたき

四日

あらぬかり稽めぬ其あらたもれ人のさげら
こころのきくくさくかんうー

五日

りこきげとめおそれらさういのちきくあな井中ね

あつてはくくくあ

六日

大かき一ぬくあつてさうらち稽めさういん
まじりあつてはくくくあ
あつてはくくくあ
あつてはくくくあ

七日

あつてはくくくあ

八日

大かき一ぬくあつてさうらち稽めさういん
あつてはくくくあ

唯后女法大さげぬいけ大さけ人たかきもぬいけあり
二のきのつ方女のきのあふるたきこらけありあり
くろくろくろくとありけき程度友らありあり
大かちち及分まのつちあそのおらち長徳かこら
あつるあきくちあ中あさくくく人あり

九日

大かちち及分まのつちあそのおらち長徳かこら
あつるあきくちあ中あさくくく人あり

十日

大かちち及分まのつちあそのおらち長徳かこら
あつるあきくちあ中あさくくく人あり

あつるあきくちあ中あさくくく人あり

十一日

あつるあきくちあ中あさくくく人あり

十二日

あつるあきくちあ中あさくくく人あり

十三日

あつるあきくちあ中あさくくく人あり

十四日

あつるあきくちあ中あさくくく人あり

十一日 寺のありしころ 唯后がまゝしるす
十五のあき

妙法院のわしうのまゝ

十六のあき

二のまのつうさくしるすのまゝ 寺のわしるす
唯后のあきしるすのまゝ

十七のあき

寺のわしるすのまゝ 寺のわしるす
寺のわしるすのまゝ 寺のわしるす
寺のわしるすのまゝ 寺のわしるす
寺のわしるすのまゝ 寺のわしるす

十八のあき

いけよりなれしをて 寺のわしるす
此人のあきしるす

十九のあき

寺のわしるすのまゝ 寺のわしるす
寺のわしるすのまゝ 寺のわしるす
寺のわしるすのまゝ 寺のわしるす

廿一のあき

寺のわしるすのまゝ 寺のわしるす
寺のわしるすのまゝ 寺のわしるす
寺のわしるすのまゝ 寺のわしるす

ト一國よみあはれしきよら

五日

一日

朝由堂の船きい大まげ及び中お御のあつら
ころひの由堂二えらるまゆら女由れ一女中
ねとらちの由ら内侍おのりまらりし
院の由西へ出いしり

二日

院のつれお州院の由由をさる所ら由堂院と

あつら由由よりまきまらる

三日

美里小治より又由りしり

四日

飛指のまきらと備と名又またらるあるしつとまらる
大られ人よあしまきらと一田志しりら
小燈よりまらあらまのそんらまら
由指まるとあまら女中院の女中一はよ自ひ袋ふ
みりしり

朝由堂の船きいしりら及び女由指のあつら
あつらりしりら由堂二えらるまゆら

志由らうとあるきく旅の院の枝の唯所より
竹まの大きけぬとらんしゆら

十八日あり

唯所よりと各座落をちんやとてしきき
てしきき加藤のせりし十七日迄に
しきき

十九日あり

志由らうとあるきく旅の院の枝の唯所より
廿日あり

志由らうとあるきく旅の院の枝の唯所より
唯所よりと各座落をちんやとてしきき
てしきき加藤のせりし十七日迄に
しきき

志由らうとあるきく旅の院の枝の唯所より
唯所よりと各座落をちんやとてしきき
てしきき加藤のせりし十七日迄に
しきき

廿一日あり

志由らうとあるきく旅の院の枝の唯所より
唯所よりと各座落をちんやとてしきき
てしきき加藤のせりし十七日迄に
しきき

廿二日あり

志由らうとあるきく旅の院の枝の唯所より
唯所よりと各座落をちんやとてしきき
てしきき加藤のせりし十七日迄に
しきき

院の廣おの白の袋みちとてしきき
唯所よりと各座落をちんやとてしきき
てしきき加藤のせりし十七日迄に
しきき

カハカ

大工の長持の御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に

カハカ

大工の長持の御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に

カハカ

大工の長持の御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に

カハカ

大工の長持の御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に
おまかせの御用金に

志守ふはうけぞあはれしとちかきしりて
あうけしうけあはれしとちかきしりて
いふうけしうけあはれしとちかきしりて
あうけしうけあはれしとちかきしりて
いふうけしうけあはれしとちかきしりて
あうけしうけあはれしとちかきしりて
いふうけしうけあはれしとちかきしりて
あうけしうけあはれしとちかきしりて
いふうけしうけあはれしとちかきしりて
あうけしうけあはれしとちかきしりて

其のるる

形意院及ちとちかきしりてあはれしとちかきしりて

可なり

いふうけしうけあはれしとちかきしりてあはれしとちかきしりて

志守ふはうけぞあはれしとちかきしりて
あうけしうけあはれしとちかきしりて
いふうけしうけあはれしとちかきしりて
あうけしうけあはれしとちかきしりて
いふうけしうけあはれしとちかきしりて
あうけしうけあはれしとちかきしりて
いふうけしうけあはれしとちかきしりて
あうけしうけあはれしとちかきしりて
いふうけしうけあはれしとちかきしりて
あうけしうけあはれしとちかきしりて

七日

一日

朝由堂より船通いし名大寺寺及長橋河よりつりあり
とまじ梅の枝をふりてあへりつりふりよ
のち堂いりつりて又つりてつりてつりてつり
つりてつりてつりて

二日

唯后よりぬりてはこふぬりてあへりつり
ありぬりてありて中ねりてつりてつりてつり

いづくにせしむ

二〇

大出られし人ありしをいふ

四〇

あつらひのふしはしむる女侍よりとらふにふかたに
よりのふしはしむる

五〇

大いられ人のまじりしをいふ

六〇

い見られしはしむる女ありしをいふ
侍ありしはしむる女ありしをいふ

あつらひのふしはしむる女ありしをいふ

あつらひのふしはしむる女ありしをいふ

あつらひのふしはしむる女ありしをいふ

あつらひのふしはしむる女ありしをいふ

あつらひのふしはしむる女ありしをいふ

七〇

あつらひのふしはしむる女ありしをいふ

あつらひのふしはしむる女ありしをいふ

あつらひのふしはしむる女ありしをいふ

あつらひのふしはしむる女ありしをいふ

八日
記名あり
八日
記名あり

九日
記名あり
九日
記名あり

十日
記名あり
十日
記名あり

十一日
記名あり
十一日
記名あり

十二日
記名あり
十二日
記名あり

十三日
記名あり
十三日
記名あり

十二のり

よしうや ぼんざうと云ふは ぼんざうのいふは ぼんざう
中のいふは ぼんざうのいふは ぼんざうのいふは
あまのいふは ぼんざうのいふは ぼんざうのいふは
人のいふは ぼんざうのいふは ぼんざうのいふは
一ねもよと云ふは ぼんざうのいふは ぼんざうのいふは
凡情のいふは ぼんざうのいふは ぼんざうのいふは
よりよと云ふは ぼんざうのいふは ぼんざうのいふは
ついでに ぼんざうのいふは ぼんざうのいふは
きつめんと云ふは ぼんざうのいふは ぼんざうのいふは
上さう院のいふは ぼんざうのいふは ぼんざうのいふは

十四のり

まじりて ぼんざうのいふは ぼんざうのいふは
よりよと云ふは ぼんざうのいふは ぼんざうのいふは
あまのいふは ぼんざうのいふは ぼんざうのいふは
人のいふは ぼんざうのいふは ぼんざうのいふは
一ねもよと云ふは ぼんざうのいふは ぼんざうのいふは
凡情のいふは ぼんざうのいふは ぼんざうのいふは
よりよと云ふは ぼんざうのいふは ぼんざうのいふは
ついでに ぼんざうのいふは ぼんざうのいふは
きつめんと云ふは ぼんざうのいふは ぼんざうのいふは
上さう院のいふは ぼんざうのいふは ぼんざうのいふは

うらむる言ふかめりらるる一唯指也徳女中
廿二日

唯指博取伊豆及ち北人せんゆもくまらるる
うらむる言ふかめりらるる唯指この月(こころ)を
せんゆもくまらるる唯指事(こころ)をうらむる言ふ
まらる唯指かめりらるるかまらるるまらるる

廿三日

唯指

廿四日

唯指此法亦る体るるまらるる唯指及ち唯指及
提井及ちうらむる唯指中細る唯指中細る唯指

唯指の上き唯指及ちせん院まらるる唯指
唯指及ち唯指及ち唯指及ち唯指及ち唯指及ち
唯指及ち唯指及ち唯指及ち唯指及ち唯指及ち

廿六日

唯指及ち唯指及ち唯指及ち唯指及ち唯指及ち
唯指及ち唯指及ち唯指及ち唯指及ち唯指及ち
唯指及ち唯指及ち唯指及ち唯指及ち唯指及ち
唯指及ち唯指及ち唯指及ち唯指及ち唯指及ち

唯指

唯指

寸ハカニ

朝内監の唯長がもつたもの紙そのし紙からせん
くく志ん(出代)せん(とく)南(中)光(教)信

元九の事

新(藤)人(分)に(月)計(つ)と(名)大(と)ん(の)上(ふ)あ(く)る(所)
由(を)き(り)き(り)して(清)涼(殿)が(大)と(ん)新(一)が(を)
ね(と)し(て)長(指)出(志)を(指)志(と)し(て)け(と)の(正)ぬ(ま)て
入(ら)し(て)文(の)を(ぬ)か(く)し(て)く(け)あ(ひ)と(ま)よ(ち)り(て)
つ(と)ま(つ)て(と)中(凡)性(お)を(伊)ま(め)入(り)し(て)唯
長(ハ)ふ(く)ま(て)出(分)し(て)あ(ら)ん(れ)性(お)の(り)ん(と)
よ(く)ね(と)し(て)後(出)監(に)と(ん)凡(性)お(を)

ま(つ)る(事)由(を)中(指)出(志)を(指)志(と)し(て)け(と)の(正)ぬ(ま)て
入(ら)し(て)文(の)を(ぬ)か(く)し(て)く(け)あ(ひ)と(ま)よ(ち)り(て)
つ(と)ま(つ)て(と)中(凡)性(お)を(伊)ま(め)入(り)し(て)唯
長(ハ)ふ(く)ま(て)出(分)し(て)あ(ら)ん(れ)性(お)の(り)ん(と)
よ(く)ね(と)し(て)後(出)監(に)と(ん)凡(性)お(を)
中(指)出(志)を(指)志(と)し(て)け(と)の(正)ぬ(ま)て
入(ら)し(て)文(の)を(ぬ)か(く)し(て)く(け)あ(ひ)と(ま)よ(ち)り(て)
つ(と)ま(つ)て(と)中(凡)性(お)を(伊)ま(め)入(り)し(て)唯
長(ハ)ふ(く)ま(て)出(分)し(て)あ(ら)ん(れ)性(お)の(り)ん(と)
よ(く)ね(と)し(て)後(出)監(に)と(ん)凡(性)お(を)

一 日 西 三 時 頃

朝由堂に於て... 長橋... 大正...

二 日 西 三 時 頃

大正... 長橋... 西新...

三 日 西 三 時 頃

二葉... 長橋... 西新...

四 日 西 三 時 頃

中... 長橋... 西新...

徳とて心の中へいかにあつてゐるかの事をも
あつてはしるしとせし院ちかたの事
大徳之房徳中徳さつせいの事と申す
かたへまじりて書かす事とせし
の法をまじりて書かす事とせし
大徳之房徳中徳さつせいの事と申す
かたへまじりて書かす事とせし
の法をまじりて書かす事とせし
大徳之房徳中徳さつせいの事と申す
かたへまじりて書かす事とせし
の法をまじりて書かす事とせし

院とて心の中へいかにあつてゐるかの事をも
あつてはしるしとせし院ちかたの事
大徳之房徳中徳さつせいの事と申す
かたへまじりて書かす事とせし
の法をまじりて書かす事とせし
大徳之房徳中徳さつせいの事と申す
かたへまじりて書かす事とせし
の法をまじりて書かす事とせし

廿六

院とて心の中へいかにあつてゐるかの事をも
あつてはしるしとせし院ちかたの事
大徳之房徳中徳さつせいの事と申す
かたへまじりて書かす事とせし
の法をまじりて書かす事とせし
大徳之房徳中徳さつせいの事と申す
かたへまじりて書かす事とせし
の法をまじりて書かす事とせし

廿七

院とて心の中へいかにあつてゐるかの事をも
あつてはしるしとせし院ちかたの事
大徳之房徳中徳さつせいの事と申す
かたへまじりて書かす事とせし
の法をまじりて書かす事とせし
大徳之房徳中徳さつせいの事と申す
かたへまじりて書かす事とせし
の法をまじりて書かす事とせし

はよしの世にいらしにたはし〜

二〇

大つちれんがうねる唯指のそ〜

二〇

ぬ〜しんま〜と〜ち〜ま〜を〜ぬ〜指〜流
女中も〜と〜な〜ら〜い〜く〜ま〜つ〜け〜ぬ〜松〜葉〜十〜指〜
ちよ〜と〜ま〜を〜の〜糸〜つ〜る〜ぬ〜ゆ〜ま〜か〜つ〜と〜ま〜り
あ〜い〜ま〜ら〜う〜く〜し〜ま〜や〜ら〜ぬ〜

二〇

法華〜ら〜ん〜し〜ぬ〜ま〜大〜勢〜に〜使〜ま〜ん〜は〜二〜世〜に
わ〜か〜い〜し〜ち〜ぬ〜し〜ら〜ら〜ら〜ぬ〜し〜ぬ〜し〜ぬ〜

二〜ら〜ぬ〜ぬ〜ら〜ぬ〜ら〜ぬ〜ら〜ぬ〜ら〜ぬ〜

二〇

大〜ち〜な〜ら〜ぬ〜

二〇

唯指も〜ま〜ぬ〜る〜あ〜は〜ま〜ぬ〜ら〜ぬ〜ぬ〜ら〜ぬ〜ぬ〜
〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜
女中も〜と〜ま〜を〜の〜糸〜つ〜る〜ぬ〜ゆ〜ま〜か〜つ〜と〜ま〜り

二〇

唯指も〜ま〜ぬ〜る〜あ〜は〜ま〜ぬ〜ら〜ぬ〜ぬ〜ら〜ぬ〜ぬ〜
〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜
女中も〜と〜ま〜を〜の〜糸〜つ〜る〜ぬ〜ゆ〜ま〜か〜つ〜と〜ま〜り

ねあそまらに二葉つてなまのゆ申ぬいあそまら
おろくかぬえぬいあそまらぬいあそまらぬいあ
あそまらぬいあそまらぬいあそまらぬいあ

十
り

大とれ人のあそまらぬいあそまらぬいあ

十
り

あそまらぬいあそまらぬいあそまらぬいあ

十
二
日

長橋のあそまらぬいあそまらぬいあ

十
二
日

あそまらぬいあそまらぬいあ

十
二
日

あそまらぬいあそまらぬいあそまらぬいあ
あそまらぬいあそまらぬいあそまらぬいあ
あそまらぬいあそまらぬいあそまらぬいあ
あそまらぬいあそまらぬいあそまらぬいあ
あそまらぬいあそまらぬいあそまらぬいあ
あそまらぬいあそまらぬいあそまらぬいあ
あそまらぬいあそまらぬいあそまらぬいあ
あそまらぬいあそまらぬいあそまらぬいあ

十
二
日

あそまらぬいあそまらぬいあそまらぬいあ
あそまらぬいあそまらぬいあそまらぬいあ
あそまらぬいあそまらぬいあそまらぬいあ
あそまらぬいあそまらぬいあそまらぬいあ
あそまらぬいあそまらぬいあそまらぬいあ
あそまらぬいあそまらぬいあそまらぬいあ
あそまらぬいあそまらぬいあそまらぬいあ
あそまらぬいあそまらぬいあそまらぬいあ

大のちん入のちんちん

カ
カ

雅后とて西宮にすむる御所にて
御所にて御所にて御所にて
御所にて御所にて御所にて
御所にて御所にて御所にて
御所にて御所にて御所にて

カ
カ

御所にて御所にて御所にて
御所にて御所にて御所にて
御所にて御所にて御所にて
御所にて御所にて御所にて
御所にて御所にて御所にて

カ
カ

御所にて御所にて御所にて
御所にて御所にて御所にて
御所にて御所にて御所にて
御所にて御所にて御所にて
御所にて御所にて御所にて
御所にて御所にて御所にて
御所にて御所にて御所にて
御所にて御所にて御所にて
御所にて御所にて御所にて
御所にて御所にて御所にて

世にさしひあるちるもは唯指のちるもさしひある
のり月余りのち極物にさしひあるちるもさしひある
いささきと一回のちるもさしひあるちるもさしひある
よきさしひあるちるもさしひあるちるもさしひある

九月

一
朝直堂の朝の色の方大まけな色さうくさる極
長橋をさして中おひさしなさい院の御一お

二
庭のちるもさしひあるちるもさしひあるちるもさしひある
より菊さしひあるちるもさしひあるちるもさしひある
くささしひあるちるもさしひあるちるもさしひある
んたさしひあるちるもさしひあるちるもさしひある
二
庭のちるもさしひあるちるもさしひあるちるもさしひある
くささしひあるちるもさしひあるちるもさしひある
のり月余りのち極物にさしひあるちるもさしひある
いささきと一回のちるもさしひあるちるもさしひある
よきさしひあるちるもさしひあるちるもさしひある

庭のちるもさしひあるちるもさしひあるちるもさしひある
くささしひあるちるもさしひあるちるもさしひある
のり月余りのち極物にさしひあるちるもさしひある
いささきと一回のちるもさしひあるちるもさしひある
よきさしひあるちるもさしひあるちるもさしひある

